

下郷町青少年育成町民会議だより

青少年の主張発表～前号からのつづき、新年のごあいさつ

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。昨年は青少年育成町民会議の活動に深いご理解とご協力を賜りまして、誠に有難く存じます。本年も皆様の更なるご支援をお願い申し上げます。

先日、信号待ちの車中からベンチに腰を掛けバスを待っている高校生を目にし、愕然と致しました。七、八人が隣り合せて腰掛けているのに誰一人として話す者もなく、全員がうな垂れて下を向いて居るのです。“どうしたのだろう”と良く見ると…掌にスマホ。ゲームかメールに夢中になって居ました。彼等の背後を犬と散歩している人が通っても、隣にお年寄りが立っていても気付かない様子。どんな状況でも、一瞬にして周囲から離脱し、自らの世界に没頭出来る彼等。他人との関わりはどれ位有るのだろうか。私自身、他人と関わる事が得意では有りませんが、彼等はそんな私の数分の一しか他人と関わりを持たないのではないかと思います。私達



町青少年育成町民会議
会長 白石 光史

は他人との関わりの中で育つて参りました。『人』と言う文字は、二本の線が互いに支え合つて出来ていると言われます。本来の成り立ちとは違いますが、なる程と思います。人という動物が人間として生きる為に最も大切な“関わり”が希薄になっている様に思えてなりません。

出先の街で目にした光景でしたが、少なくとも、我が下郷町の青少年には、より多くの他人との関わりの中で、心豊かに、大きく大きく成長して欲しいと思います。

福島県青少年育成県民会議会長表彰

11月20日、福島県文化センターで開催された平成27年度第38回福島県青少年健全育成推進大会において、表彰式が行われました。本町からは、【青少年指導者の部】下郷ジュニアバレーボールクラブスポーツ少年団 星 広さんが福島県青少年育成県民会議会長表彰を受賞しました。

平成27年度「家庭の日」作品入賞

青少年が心身共に健やかに成長していくことを願って、毎月第三日曜日を「家庭の日」とし、健全で明るい家庭づくり運動を推進しています。この「家庭の日」を推進するため、作文、絵画、ポスターの作品募集がされました。本町からは、応募総数千七百二十三点の中から、檜原小学校三年星真由さんが優良賞に入賞しました。おめでとうございます。

早寝 早起き 朝ごはん

～大人が変われば、子どもも変わる～

優良書籍のご案内

冬は何かと家に籠ることが多くなる季節だと思えます。そんな時は、読書をしてみてはいかがでしょう？ 福島県において推奨されている図書をご紹介します。



かわうそオスカーのすべりだい

ナサニエル・ベンチリー・作
アーノルド・ローベル・絵
こみや ゆう訳



ぼくと象のものがたり

リン・ケリー・作 若林 千鶴・訳
朽木 祥・作 ささめやゆき・絵



おどる詩 あそぶ詩 きこえる詩

はせ みつこ・編 飯野 和好・絵

青少年の主張発表 小学生の部

災害から学んだ事

江川小学校 5年
小山 紘



みなさん、最近、日本の山が噴火するニュースが多くありませんか。
五月二十九日、午前九時五十九分ごろ、鹿児島県の口永良部島の新岳という山で爆発的噴火が発生しました。噴火のけいけいレベルは五になり、全島住民百三十七人が、となりの屋久島や鹿児島県に避難したということでした。
テレビのニュースを見ると、避難している人たちの顔はみんな疲れた顔をしていて
「いつ島に帰ることができるか」と、不安な表情をしている人を見ると、自分も、「この人たち大丈夫かな。」と不安な気持ちがわきあがってきました。その一方で、口永良部島の消防団の人は、「避難がどうなるかわからなくても仕方がない。目の前のできることをするだけです。」と力強い言葉を返す人もいました。

ぼくは、島の人々が「早く自分の家にもどれるといいな。」と願っていた。ところが次の日の新聞を見ると、「島へ住民が帰るまでの期間は、最大で年単位になることを考えなくては行けない。」という記事を目にしました。ぼくは、この見だしを見たときに、今から四年前の三月十一日に発生した東日本大震災のことを思い出しました。
ぼくはあの日、まだ保育所にいました。その時に、あの大震災が起こったのです。二時四十六分、保育所の建物が、ガタガタと大きくゆれ始めました。恐怖と不安で心臓の音がバクバクと音をたてました。先生が大きな声で、「机の下にかくれなさい。」とさけんでいました。みんなが机にかくれている様子を見ながら、自分も落ちつこうと必死だったことを覚えています。本当は、とてもこわくて、今にも泣きだしたいくらいでした。家に帰ると、家族がみんな無事だったことに、とても安心しました。

のことがかりニュースが流れ、津波で家族や家を失っている人のことや、原発事故により福島県が放射能で汚染されていることを知り、これはとても大変なことが起こっていると、幼い自分でもわかりました。
「もしこのまま放射能が広がったら、ぼくたちも福島県から避難しなければいけないのかもしれない」と不安になったことを思い出しました。
福島県の中には、放射能が飛び散ってしまったせいで、長い間ふるさとに帰れない地域の被災者の方がいます。でも、ぼくたちの南会津は安全な地域として、多くの被災者の方が来てくれました。四年前のぼくたちの学校での運動会では、少しでも震災のことを忘れて楽しんでいただこうと、被災者の方を招待しました。多くの方に参加していただき、笑って、感動していただきました。ぼくたちもその笑顔を見て、逆に元気をいただいたような気持ちになりました。その時に、

「笑顔は人に勇気を与える。」
ということを学んだのです。
ぼくたちが、笑顔で運動会で活動して楽しんでいる様子を見ていただき、被災者の方が元気になったように、被災者の方々が笑顔で運動会に参加していただいたのを見て、ぼくたちがさらに元気になったように。
きつと笑顔は、人を元気にすることができるのです。
ぼくは、なんらかの形で災害によって苦しんでいる人たちの力になりたいと思っています。今回のように、被災した様子を多くの方に伝えたり、励ましの手紙を書いたり、もう少し大人になったら、ボランティア活動に参加したいと思っています。
そして、なにより自分自身が元気にいرونなことに挑戦してがんばっていかうと思っています。いつも笑顔を忘れずに。

ふるさとのほこり、郷人

檜原小学校 5年
小椋 理央

郷人は下郷町をたくさんアピールしているよさこいチームです。郷人は福島県の代表でもあります。郷人は毎年テーマを持って取り組んでいます。郷人はとても礼儀正しく、あいさつや返事などしっかりとできます。郷人は一人一人練習を全力で行います。こうして考えてみると、郷人はたくさんの人が交流する小さな学校のような感じがします。
郷人は今年で創設十五年になります。私がおどり始めて六年目になりますが、母からは、私は生まれてからずっと郷人の仲間仲間と聞かれています。そう思うと、私にとって家族

みたいなところです。
現在、郷人は下郷や若松、郡山の人達を中心に約百十人ほどで編成されています。おどり手は約八十人、スタッフは約三十人くらいいて、遠いところで茨城や東京からも来ています。大きな大会は年間六つほどあり、昨年は北海道の大会をのぞいて優勝しました。今は簡単に「優勝」といっていますが、そこまでの道のりはきびしい練習の連続でした。
休みの日の練習は午前九時から午後五時まで行います。大会が近くなると午後七時くらいまで行い、終わった後の体はもううへへとです。そんな練習

は楽しくもあり苦しくもあります。イメージ通りにおどれない時や、長時間おどっていて体力が持たない時もあり、練習は苦しい方が多いかもしれませんが、私は一度もありません。それは、練習が終わった後の充実感、イメージ通りにおどれたときの喜び、大会に出たときのきん張感や達成感があるからです。そして何よりも、「よさこいを見ていただく方々に感動してもらいたい」という思いがあるからです。これは郷人みんなの思いでもあり、代表である渡部一さんがくり返して伝えていることでもあります。

一さんはきびしい方です。よさこいに対する熱い思いをいつも感じます。私が少し気持ちが入っていない時に、「親がやれって言ったのか。自分が好きでやっているのか、もつと考えてちゃんとやりなさい。」
ときびしく言われたことがあります。私は一さんの一言で気持ちが変わりました。もつと練習してお客さんに感動を与えようと思いました。一さんは郷人一人一人のことを大切に思ってください方です。本当はとても優しくおもしろい方だとも知っています。
先日、北海道で開かれる「YOSA K O I ソーラン祭」に行ってきました。



本当の友達とは

旭田小学校 5 年

玉川 かれん

みなさんは「本当の友達とは何だろう」と考えたことはありますか。私は本がとて好きで、よく読みます。読んでいると必ずと言って良い程、とても仲の良い友達が出てきます。本の中には、簡単に「親友」や「友達」という言葉が出てきます。でも、現実はその簡単なものではないと思うと、少し不安になってしまいます。

私達五年生のクラスは十九人です。人数が少ないので、休み時間には男女問わず、みんなで仲良く遊んでいます。時々、一人の友達のとこに数人集まって、楽しそうにゲームの話などをしていてるところを見かけます。他にもその友達は、クラスを盛り上げてくれたり、笑わせてくれたりしてくれて、私があこがれている人です。私は、「いいな。私もあんなふうに友達と仲良く遊んだり、話したりしたいな。」と思うことがあります。けれど私は、友達と話しているときなどに、自分の

意見をはっきり言えず困ってしまうことがあります。

ある日のことです。仲の良い友達と話していると、いつの間にかゲームの話になりました。私はゲームを持っていないので、話についていけません。私は、「うらやましいな」とか「楽しそうだな」と思いましたが、言い出せませんでした。すると、私がゲームを持っていないことを知っている友達が話を覚えてくれたのです。後から友達に、

「ありがと。」

と伝えると、

「大丈夫だよ。」

と言ってくれました。その時は、友達が自分に気をつかってくれたのが、とてもうれしかったことを覚えています。

また、合奏祭のときには、私の楽器が演奏直前にこわれてしまい、困っていたら、友達が自分の楽器と交換して

くれました。自分もこわれていない楽器で演奏したいはずなのに、私に楽器をかしてくれて、とてもありがたいと思いました。友達の親切な気持ちに、不安がなくなって、間違えさきちゃんと演奏することができました。

その友達がいなければ、みんなの話についていけなくて、悲しい気持ちになったり、不安で演奏がうまくできなくなったりしていたと思います。そうしたら、私の人生は大きく変わっていたでしょう。私は、友達というものは、いなければならぬ存在だと思います。

今まで私は、友達から何かを「与えられる側」でしたが、これからは自分が友達を支えて「与える側」になりたいです。本当の友達、それは辛い時も悲しい時も一緒に乗り越えることのできる大切な人ではないでしょうか。

私には、本当の友達と言える人がたくさんいます。私はこれからも、本当の



全国から約二百七十チームが参加する大きな大会です。

昨年この大会だけが優勝できなかった大会なので、最高の賞である「大賞」を目指し、みんな苦しい練習にもたえがばってききました。

大会当日、たくさんの観客が見守る中、私はものすごい緊張感を感じていました。その中でも「絶対に間違えないでおどる」という目標を立て、最高の演舞をしようと必死になっておどりました。結果は私が入っているチーム「郷人こめら」は残念ながら上位にいくことができませんでしたが、大人の

本隊は見事、全国で優秀賞をとること

ができました。私は改めて「郷人はすごいチームだ」と思いました。それは一番の目標であった、大勢の方に感動を与えられたからです。ここ、下郷町は全国から見れば大変小さな町かもしれませんが、大舞台で少しでもこの町をアピールできたことは、私のほこりです。

しかし残念なことに郷人のメンバーの中に私をふくめ、下郷出身の小学生が五人しかいません。地元の人が増えれば、すばらしい町おこしになるのではないかといつも考えています。

下郷町にとって郷人は、勇気を与え

られる存在だと思います。また、笑顔を与えられる存在だとも思います。そして全国に感動を与えられる存在だとも思います。

私が大人になっても続けていこうと思っています。その時には、これから入ってくるメンバーのために、そして自分が住んでいる下郷町のために、力になれたらと思っています。

郷人は最高です。会場の皆さんも私たちと一緒にあってみませんか。

友達を一人でも多く作っていききたいと思えます。

みなさんには、「本当の友達」はいいますか。

私たちの革命

檜原小学校 6 年
大竹 沙珠奈

「革命」
この言葉は、私たち檜原小学校六年生の今年度の学年スローガンです。このスローガンが決まったのは、五年生の終わりでした。みんなで学年Tシャツに入れる文字などを考えていた時に、六年生になったら檜原小学校に「革命」を起こしたいという思いから出てきた言葉でした。「革命」という言葉についてですが、私は始めの頃は単に新しいことを始めることだととらえていました。しかし、六年生になって少し経った今は、「新しい風を起こして、伝統を残すこと」なのだと考えるようになってきました。

私は六年生になって、体育委員長になりました。希望は視聴覚委員会でしたが、じゃんけんに負けて体育委員会に入るようになりました。とはいえ、どの委員会に入っても、学校のリーダーとして、いろいろなどころで新しいことを始めたいと思っていました。小学校最後の運動会では、指揮台の上でラジオ体操を行いました。満足いく演技ができず、その時は委員長としてはだめだなあと思っていました。それが、先日うれしい出来事がありました。体育委員会が校内のマラソンチャリペオンを表彰する取り組みを始めたのですが、そのことについて、昼休み

に五年生が質問しに来てくれたのです。自分が委員長として下級生に頼られているということを実感し一歩成長できたような気がしました。また、朝のマラソンの前に、体育委員会で右拾いをしたことを、先生からみんなの前でほめられた時は、本当に活動してよかったと思いました。

六年生全体としても、檜原小学校に革命を起こすという目標のもと、一致団結してがんばっています。運動会のよさこいでは、姿勢や声の出し方などの基本を徹底し、また、新しい振り付けを取り入れるなどした結果、今まで以上に見ている人を感動させられる演技を披露することができました。

他にも、最高学年として頼りにされることも多くなり、その度にリーダーシップを発揮して学校全体を動かす中で、やりがいを感じることができました。

また、先日の修学旅行では、バスガイドの方から、最近担当したいろいろな小学校の中で最も素敵な小学生だとおほめの言葉をいただきました。私たちが元気にあいさつをしたり、一生懸命歴史を学んだり、友達と協力したりしている姿を、周りの人はちゃんと見てくれたのです。私たちが目指している「革命」がいろいろな所で少し

幸せの種

江川小学校 6 年
鈴木 理子



わたしはここに宣言します。
「小学校最後の試合、勝って笑顔で終わらせませう。」
わたしは江川小学校スポーツ少年団バレー部に所属しています。六年生だけれど、入部して二年目。まだまだ初心者です。ずっと入部したかったのに、「弟が小学校に入部して、保育所の送迎がなくなっから。」と母と約束していたのがまんしてしまいました。だから、初めての練習のときは、何もわからなくても、うれしさをいっぱいでした。練習日が待ち遠しくてしかたがなかったです。

わたしたちのチームは、六年生三人、四年生五人、三年生一人、二年生三人の少人数で仲良しのバレー部です。バレーが好きで、いつも楽しんで練習に取り組んでいます。かんとくやコーチは、明るくて優しく、このチームの一員になれてよかったといつも思います。指導してくれるチームのお父さん、お母さん達は、いいところを見つけて、やる気を与えてくれます。特に部長は、

しかる時はきびしいけれどバレー以外のことも相談できる大好きな人です。友達のお母さんなのに、まるでチームのお姉さんみたいな人です。
こんなに仲が良く楽しいバレー部は、日本中さがしても江川だけだと思えるほど自慢のチームです。だけど試合については、自分からいたくなくいけれど、あまり強くありません。
六年生三人は、保育所時からずっと一緒に、兄弟と友達の間のような関係です。ちよつと言いくいけれど、こんなのを親友と言うのだと思います。六年生は女子が三人しかいないというのもあり、けんかもたくさんありました。低学年のころは、だれか一人が仲間はずれになったりと、きずつくことも、きずつけることもありました。でも今ではかけがえのない友達です。二人が困っていたらなんとかして助けたいし、もしわたしが困っていたら、二人もきつと力になってくれるはず

です。
そんなわたし達に新しい関係ができました。一人がエースアタッカー、一人がキャプテン、そしてわたしが副キャプテンです。一学年上の先輩たちが、バレーを始めて一年にならない私を副キャプテンに指名してくれました。うれしい反面、わたしでいいのかと迷う不安な気持ちでいっぱいでした。だけどあこがれの先輩たちが指名してくれたということが、わたしに自信をつけてくれました。大切な友達であるキャプテンを支えたい、チームのえんの下力持ちになりたいと思っています。
先輩たちが卒業した心細さを消さないまま新体制での活動が始まりました。今日も勝てないのかな。そんな中むかえた春季大会でわたしたちのチームは準備優勝しました。勝てるかもしれないと感じながらの試合は初めてのことで、ドキドキして現実なのかわからないような不安がありました。でもそれを上回る楽しさと、かんとくやコーチの力強い後おしがありました。応援席からの声援も、今まで聞いたことが

ないほど大きかったです。試合終了後、チームの仲間と手を取り合って喜びました。もちろんその中心にはわたしたち六年生三人がいます。
もつとがんばって、この気持ちをまた味わいたい。そしてお母さん達に勝ち試合をプレゼントしたい。いつもだれよりも一生けん命な部長に、「このバレー部の部長でよかった。」と言ってもらいたい。そしてなにより、わたしたち六年生女子三人の一生の思い出になるような試合を経験したい。きつとわたしたちは一生の友達だから。一試合でも、ワンセットでも多くの幸せの種を残したいです。

だからわたしは宣言します。「小学校生活最後の試合、勝って笑顔で終わらせませう。」



命の大切さについて 考えたこと

旭田小学校 6 年
五十嵐 陽奈

みなさんは、命の大切さについて考えたことはありますか。例えば、自分の妹、弟が生まれた時、ペットに赤ちゃんが生まれた時。そして、自分の身近な人や自分の飼っていたペットが死んでしまった時。みなさんの中にも、そのような経験をしたという人は、たくさんいると思います。

私たちの周りには、私たちを支えてくれる人が大勢います。私は、ペットにも支えられていると感じています。私は以前、親子のねこを飼っていました。名前は、親ねこがチー、子どもがチビです。チーは毎日家にいて、チビはいつも外で遊んでいました。チーとチビはとても仲がよく、冬はこたつの上で二匹で寝ていました。たまに、入れたばかりのお風呂のふたの上で寝ているときもあって、とてもかわいかったです。私は二匹が大好きで、いつも一緒に遊んでいました。

ところがある日、チーが手術をしな

ければいけなくなりました。手術は無事に終わったものの、手術で体力が落ちてしまったのか、どんどんやせ細ってきてしまいました。秋に入ると、チーは動けなくなり、年が明けてすぐの冬のある日、チーは死んでしまいました。私はとても悲しくなりました。その後、何カ月かして、チビが姿を消しました。探しても探しても、見つからず、二週間ほどたった日、やっと見つかりました。しかし、チビは病気ににかかってしまっていました。チーの分を取ってまで、ごはんを食べていたチビが、全然食べなくなっていました。そして、春の初めのころ、チーの後を追うように、チビも死んでしまいました。私は、亡くなったチーのことをチビがずっと探していて、亡くなったのが分かったから、わざと亡くなって、天国にいるチーに会おうと思ったのかもしれないと思いました。私は、今でも、チーとチビのことを思うと悲しく

なり、「もつとかわいがってあげればよかったなあ。」など色々考えてしまいう時があります。

ついこの前まで、よく報道されていたイスラム国のニュースでは、たくさんの人が殺されたというニュースがありました。どのような理由があるかは、子どもの私にはよくわかりませんが、殺された人の気持ちになつてみるとどうでしょうか。自分もつづいている夢も一瞬にしてなくなってしまうのです。悲しくて、くやしいことだと思います。

人や動物は、なぜ、何のために生まれ、子孫を残し、命を引き継ぎながら生きていくのでしょうか。私は、このことを、よく考えます。社会科では、聖徳太子の亡き後、中大兄皇子たちが遺志をついだと学習しました。もしかしら、誰かの遺志をつぐために生きているのかもしれません。または、様々な争いのもとになったように、自分たちの力を守るため、見せつけるために

生きているのかもしれません。私は、自分の人生をくいの残らないように生きていきたいと強く思います。そして、自分のやりたいことに向かって進んでいくことが、「生きる」ということだと思ふのです。

日本人の平均寿命は、約八十才です。限られた時間を、友だちとずっとけんかしていたり、やりたいことをすぐにあきらめてしまったりしてはもったいない気がします。わたしは、まずはこの旭田小学校での残り少ない生活を、いろいろなことに挑戦し、最高の日々になりたいと思います。みなさんは、自分の命をどのように生きていきたいですか。



ずつ実現できているような気がしました。しかし、六年生としての責任感を求められ、苦い思いをする時もあります。「班長は五年生でもいい。」

そうじの班長なのに、始まる直前ギリギリにそうじ場所に行った時、先生に五年生と代わるように言われたのです。六年生じゃなかったら、ここまで厳しく言われることはないのに、六年生だから早く行動しなければいけないというのは、当然なことなのですが、辛く感じました。

また、当たり前のことを当たり前に行うことも革命を起こすためには欠か

せないと感じました。例えば、ハンカチやティッシュを忘れない、ろうかを走らない、勉強に必要なものは持つて来ないなど、学校のルールについてです。しかし、私たちはこれらを破ってしまったこともありました。四年生くらいまでは、ルールを守っていたのに、高学年になってからはなんとなくルールを無視してもいいような雰囲気になっていました。そのことについて、先生に注意されることもたびたびありました。でも今は、自分たちの気持ちを引きしめて行動しています。

自分が五年生の時は、仕事を任せられるとただただうれしく、六年生にな

ればできるだろうと思っていたのです。が、意外に難しいことがわかりました。六年生は他の学年よりも一人一人が担当する仕事が多く、その両立が難しいのです。六年生になった今は、先輩の六年生の気持ちが分かる気がします。

「革命」という目標に向かってみんなで協力して積み上げていくことは大変ですが、その分、最高学年ならではの喜びも味わえます。

その一方で、ほんのちよつとのことです。築き上げた信頼や伝統がなくなってしまうということもわかりました。

六年生になって数カ月。本当の「革命」とは、自分自身が変わること、当

たり前のことをしっかりとやること、みんなでも新しいことに取り組むことだと感じました。これから取り組んでいく水泳大会や陸上大会では、新記録をねらうだけでなく、応援も一致団結してやっていこうと思っています。そして六年生一人一人が手本となり、五年生にこの伝統を引き継げるようにがんばりたいです。

町民会議

平成28年
143号

2016/1/1

No.143

●編集・発行

下郷町青少年育成町民会議
(町教育委員会事務局内)

〒969-5345

福島県南会津郡下郷町大字
塩生字大石 1000

TEL.0241-69-1168

FAX.0241-69-1167

賀正

今年は申(さる)年。

【猿】山の賢者で、山神の使いと信じられていました。信仰の対象としても馴染み深い動物です。

更に「申」という字は「樹木の果物が熟して固まっていく様子」を表したものだそうです。

下郷町の「猿湯伝説」を知っていますか？獵師に撃たれた一匹の猿が、岩間から湧き出る湯を見つけ、傷を癒したとされる言い伝えです。そう、あの「湯野上温泉」にまつわるお話ですね。

申年にちなんで、自分が生まれ育った地域を知り、歴史を再認識してみたいかがでしょうか。

2 下郷町スキー教室 / 町民スキー大会

第1回スキー教室 平成28年1月9日(土)

第2回スキー教室 平成28年1月16日(土)

【時間】午後1時30分～午後3時30分

【会場】会津高原 だいくらスキー場

【集合場所】第1ロッジ前

(午後1時15分集合)

【対象者】小学生から一般

【費用】レッスン料無料

傷害保険料1回につき200円

(未加入者のみ)

※リフト代は自己負担となります

【申込方法】教育委員会社会教育係まで
申込書及び保険料を添えて提出

【申込期限】平成28年1月6日(水)まで



◎町民スキー大会

【日時】平成28年2月28日(日)

受付 午前8時30分～

【会場】会津高原 だいくらスキー場

※詳細は今後配布されますチラシをご覧ください。

1 冬期休業について

町内各小中学校の児童・生徒が冬季休業に入ります。

期間/平成27年12月23日(水)～

平成28年1月7日(木)

子ども達の冬休みが、安全で安心に過ごせるよう、ご協力をお願いいたします。

～有意義な冬休みにするために～

規則正しい生活を送りましょう

●夜ふかし、食べ過ぎ、運動不足(ゲームやテレビばかり)にならないように注意しよう。

●外から帰ったら、手洗いやうがいをしてしよう。

安全に気をつけて生活を送りましょう

●雪遊びをするときは、軒下や側溝、道路への飛び出しに気をつけよう。

●日が暮れるのが早いので、午後四時頃には帰宅しよう。

●子どもだけで出かけるときは、「誰と、どこで、何をするのか」を家族に伝えよう。

思い出に残る楽しい体験をしましょう

●地域の行事や子ども会の行事に積極的に参加しよう。

●友だちと身近にできる様々な遊びを考えて、遊ぼう。

●自分にできる家でのお手伝いを決めて、忘れずにがんばりましょう。

3 インターネット利用について ～その利用、大丈夫？～

子どもたちも利用するケータイやインターネットは、生活の中で、非常に便利で豊かな生活を実現させてくれるツールであることは間違いありません。しかし、そこには様々な危険がひそんでおり、利用する上では、子どもたちの危険性に対する認識と大人の子どもへの利用に対する関心を高める必要があります。

【出会い系サイトやプロフの危険な誘惑】

出会い系サイトにアクセスし、悪意をもった大人と接触したり、プロフに個人情報を書き込み、凶悪事件に巻き込まれた事例があります。

【ネットいじめ】

掲示板、ブログ、プロフに特定の子どもの誹謗中傷を書き込んだり、なりすましメールなどを使って、特定の子どものいじめが起きています。

【ケータイに振り回される子どもたち】

夜遅くまでメールやネットゲームをして、睡眠不足になり、生活が乱れています。学習時間にも悪影響を及ぼしています。

【個人情報を狙う悪質サイト】

名前や住所、電話番号、メールアドレス、家族構成等の個人情報の取得を狙ったサイトやメールが送られてきます。

有害サイトのフィルタリング機能設定や迷惑メールなどの受信拒否設定を行い、正しい使い方を理解するとともに、家庭で話し合い、使い方のルールを作ることで、子どもたちが被害者や加害者にならないように守りましょう。